

平成 24 年 7 月

(第 1 回)

京都府教育委員会会議録

1 開 会 平成24年 7 月 13日 午後 3 時 5 分
閉 会 平成24年 7 月 13日 午後 3 時 23分

2 出席委員

大 橋 委 員 長 冷 泉 委 員 畑 委 員
谷 口 委 員 平 塚 委 員 田 原 教 育 長

3 欠席委員

なし

4 出席事務局職員

橋 本 教 育 次 長 小 橋 管 理 部 長
永 野 指 導 部 長 田 中 教 育 企 画 監
古 市 指 導 部 理 事 大 谷 総 務 企 画 課 長
沖 田 学 校 教 育 課 長 藤 井 高 校 教 育 課 長
田 端 学 校 教 育 課 総 括 指 導 主 事 片 山 総 務 企 画 課 副 課 長
西 本 総 務 企 画 課 主 事

5 議事の概要

(1) 開会

委員長が開会を宣告

(2) 前会議録の承認

ア 6月分2回の会議録について、全出席委員異議なく、これを承認した。

(3) 報告事項

ア 請願・陳情等の受理状況について

(ア) 「京都市・乙訓地域公立高等学校教育制度」についての要望書について

【指導部理事の報告】

D I C 京都セクションから平成24年6月30日に提出された「京都市・乙訓地域公立高等学校教育制度」に係る要望書の概要と、現在の状況について説明。

- 同様の内容で「京都市・乙訓地域公立高等学校教育制度に係る懇談会」座長あてにも要望書が提出されており、要望書の内容について懇談会の冒頭で説明している。
- 要望書では、懇談会の5回の審議状況を踏まえて、D I Cからの意見主張が述べられている。
- 要望されたポイントは、既に議論いただいている内容であり、「まとめ」についても第6回懇談会で議論され、懇談会は終了している。

【質疑応答】（○：委員、◇：事務局）

- D C I 京都セクションとはどのような団体か。
- ◇ D C I とは、Defence for Children Internationalの略称で、子どもの権利を守り発展させるNGOの京都セクション（分室）である。日本に対しては、過度の受験競争とならない教育制度を考えるよう国連から勧告がなされており、その勧告を踏まえて提案している。

イ 平成24年度京都府小学校学力診断テストの結果の概要について

【学校教育課長の報告】

本年度に実施された京都府小学校学力診断テストの学力調査と質問紙調査の結果の概要について説明。

- 調査結果のポイントは、①全体的な学力は4年、6年ともにほぼ定着している、②家庭での学習習慣の定着が進んでいる、③学校以外で進んで読書する児童が増加している、④規範意識は依然低く、課題がある、⑤携帯電話の所持率が増加している、の5点である。

- 今後は、京都府教育振興プランの「包み込まれているという感覚」を実感できる教育活動を展開するとともに、京都式少人数教育を更に推進し、指導方法の工夫改善を進めたい。
- 7月に開催された「小学校学力の状況分析・活用講座」では、調査結果のデータが活用された。また、8月7日に開催される「小学校教育課程京都府研究大会」では、質問紙調査を学力分析に生かす方策や授業改善についての協議が行われるなど、調査結果の分析や活用が進められている。
- スマートフォンを始めとする携帯電話は、その危険性が危惧されていることから、リーフレットを小中学校（京都市含む）の家庭に配布して、家庭でのルールや使用方法などについて保護者への啓発を進める。

【委員の意見等】

- 小中学校の非行防止教室を視察した。中学校では悪いことをすれば罪になることを生徒が緊張感を持って聞いており、法的にきっちり教えることが大切であると感じた。小学校では、スクールサポーターと担任教諭が連携して授業を行っており、学校教育は学校の先生だけではなく、多世代の方や外部の方に入ってもらうことが重要であると感じた。
- コンビニに集まった高校生の空き缶を片付けずにいる姿を見て、公德心に欠けているという印象を受ける。小中学校段階から規範意識を高めるような教育を徹底できれば、非行や暴力事象の減少につながる。規範意識の向上に向けた取組を一層進めていただきたい。

(4) 委員長職務代理者の指定【非公開】

[平成24年7月15日付けで、委員長職務代理者に冷泉委員が指定された。]

(5) その他

ア 公開しないこととする議決について

(京都府教育委員会会議規則第15条第1項第1号)

委員長職務代理者の指定について、全出席委員異議なく、公開しないこととすることに議決。

(6) 閉会

委員長が閉会を宣告

署 名

畑 委員長

冷 泉 委 員

平 塚 委 員

上 原 委 員

田 原 教育長

事務局職員